◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆
－　教育ネットワーク中国　　メールマガジン　－
戦略的大学連携　Ｎｏ．１７　2010 年 6 月 1 日
◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

****

「若手職員研修会」の企画・実施を担当して

****

5 月 22 日（土）、教育ネットワーク中国の今年度第１回目の研修会が開催されました。第１回目は、今年も比治山大学様を会場に、おおよそ入職３年未満の職員を対象として、「若手職員研修会」としました。昨年と異なるのは、昨年の「若手職員研修会」の参加者の中から、４大学 6 名のメンバーが集まって今回の研修の企画・実施スタッフを務めた点です。

18 歳人口の減少という大学を取り巻く厳しい環境の下、日本の大学および大学職員にとってはこれからがまさに冬の時代です。その厳しい状況に立ち向かう上で、私たち大学事務職員には何が期待され、そしてその期待に応えていくためには何が大切なのか。このテーマの解決に取り組もうと思えば、とても１回や２回の研修会では追いつきません。そのため私たちは、今回の研修会ではテーマを細分化して問題解決について話し合う場を設けるのではなく、それぞれの職員が大学を取り巻く現状について、まずは「知り」、そして「考える」機会となることを目指した研修会を企画しました。

今回の研修会では、最初にテーマに沿ったグループワークを行い、その結果を発表により共有した上で、広島大学高等教育研究開発センター長の山本眞一先生から「これからの大学職員に期待される役割について」と題してご講演いただきました。様々なデータと分析を基に、日本の大学を取り巻く環境とその中における大学職員のあるべき姿についてお話いただいた 90 分間の講演は参加者からも大好評であり、大学職員として働く上でのモチベーションの向上に大きく繋がったと感じました。なお、各グループの話し合については「他大学の職員と話し刺激になった」「他大学について知ることで自分の大学について考える良いきっかけになった」などの感想があったことを付け加えておきます。

今回の研修会を全体的に見渡してみると、自分の所属する大学や国公私立の枠にとどまることなく、同じ大学職員として情報共有をはじめとした人的交流を持つことで改めて大学職員としての自覚と向上心を持つ良い機会になりました。「好敵手」を Wikipedia で調べてみると、「一般に好敵手は、何らかの競争関係において、好ましい状態変化を促す存在」とあり、また「英語のライバルは『常に対立し合っている宿敵』という意味で、好敵手という意味合いは無い」とありました。私たち大学職員はこれからの時代に立ち向うためにそれぞれが協力して切磋琢磨し、ライバルという関係を超越した「好敵手」として高等教育の現場である当地域の大学全体を盛り上げていかなくてはならないと改めて実感しました。今回の研修会が今後の大学職員同士の良い「好敵手」関係の構築に役立てば幸いです。

今回の研修参加者の中から広島大学の丸山　操さんに感想と今後の意気込みについて語っていただき、今回の研修報告とさせていただきます（後掲）。

（若手職員研修会　企画・運営スタッフ　広島国際大学　綿　龍太郎）

進　捗　状　況

今年度、第１回研修会は５月 22 日（土）に今年度の新入および概ね入職３年以下の事務職員を対象として研修会を開きました。55 人の若手職員が９グループに分かれグループワークを行いました。その後「これからの大学職員に期待される役割について」を山本眞一氏（広島大学高等教育研究開発センター長）が講演されました。全体の参加者は 63 名でした。なお、昨年度より研修会は教育ネットワーク中国が主催する「エニカカレッジ」としての位置づけしています。

本年度の高大連携遠隔授業は、６月１日から向原高校と日彰館高校の２高校と広島修道大学を同時につないで開始します。

前期は比治山大学、広島経済大学、広島工業大学、広島国際大学、広島女学院大学、広島修道大学の６大学 10 講座を配信いたします。詳しくは、http://www.enica.jp/senryaku/program1-2010.html　をご覧ください。

中高大連携講座「大学で何を学ぶか」は、18 大学 52 科目の科目提供がありました。庄原実業高校の「進学進路相談」には、８大学２短期大学の参加があります。今年度は時間を変更し、保護者にも参加の案内をしています。

（事務局）

会　議　報　告

５月 10 日（月）
第２回戦略的大学連携運営委員会（青少年センター）17 時～

研　修　報　告　　「若手職員研修会」に参加して

私は入職２年目になりますが、日々の業務に追われる中で、大学全体のことや、大学職員として大学の自身の在り方などを考えることが少なくなったように感じていました。学生と関わりのない部署で働いているため、「教育」機関にいる自覚も薄れていました。そんなこともあり、日常業務から少し離れたところで「大学」「教育」のことを考える機会になればと思い、今回の研修に参加しました。

グループワークでは、様々な大学の職員の方から、それぞれの大学のことを聞き、同じ「大学」でも国・公・私立の違いや、大学の規模等によって、こんなにも違うものかと、驚くような発見が多くありました。職員の採用の段階から様々で、学部数・学生数・教職員数が違えば、職員ひとりに任される仕事も違っていました。お互いの大学の違いを知る中で、自分の大学の特色というものを改めて認識することができました。そして、グループの方と話していて、皆さん自身の大学についてよく勉強をされているし、大学に愛着をもち、真摯にお仕事に取り組んでおられるのだということが伝わってきました。自分もそうありたい、そうなっていきたいと思いました。

山本先生の講演では、日本の大学や、大学教育の現状についてお話を伺い、今後の大学職員に求められる役割について教えて頂きました。少子化や、政治経済の動向は、大学経営にとって決して明るいものではないが、それをただマイナスにとらえるのではなく、大学変革のチャンスととらえようという先生の

お話には、大変感銘を受けました。変革の時代の中で、大学職員ひとりひとりの能力や意識の向上が大学にとって重要になってくるのだということを教わり、頑張らなければいけないと、気が引き締まる思いでした。

研修終了後は懇親会にも参加させていただきましたが、研修だけではお話できなかった方々とも交流でき、非常に楽しかったです。こうして大学の枠を越えた新しい繋がりが広がっていき、地域全体で大学教育を盛り立てていけたら、とても素晴らしいことだと思いました。今後の教育ネットワーク中国の発展に期待しています。

最後に、今回の研修は、自分と同じような若手の大学職員が集まって企画・運営を行っていたということも、私にとっては大いに刺激になりました。
担当された教職員の皆さま、お疲れ様でした。どうもありがとうございました。

（広島大学職員　丸山　操）

****

＜発行：問合せ先＞　教育ネットワーク中国
〒730-0011　広島市中区基町10-3（広島県庁内　自治会館3階）
TEL　082-209-8044　FAX　082-209-8045
E-mail　office@enica.jp　URL　http://www.enica.jp/
※等幅（固定幅）フォントでご覧ください。
※お預かりする個人情報は、適切に管理し、承諾なく上記の目的以外に利用すること、第三者に開示することは一切ありません。
※内容の無断転写を禁止します。